令和７年度第２回倉敷市社会教育委員会議　会議録

（開催日時）令和８年１月２９日（木）１４時００分～１５時４０分
（開催場所）倉敷市役所　１０階大会議室
（議　　題）（１）令和７年度教育行政重点施策の取組状況について
（２）倉敷市における家庭教育支援の在り方について
（３）その他
（出 席 者）委員１２人・欠席３人（別紙：社会教育委員名簿　参照)、事務局１３人
（傍 聴 者）なし
（報　　道）なし
（会議内容）以下のとおり

１　開会

２　挨拶
・教育長挨拶

３　議題
（１）令和７年度教育行政重点施策の取組状況について
〇事務局からの説明
・社会教育分野の主要事業・重点事業を掲載した資料をもとに、生涯学習部関係の重点施策・主要事業の主な事業について、令和７年度の取組状況を説明。
・事前質問５件について、資料２「質問に対する回答」のとおり回答。

【議　長】
事前の意見や質問に対して説明があったが、その他何か意見や質問はあるか。
【委員１】
子ども会支援事業について、どこの畑を使っているか、どの程度の芋を植えるか、日頃の管理はどのようにしているか、収穫した芋はどうしているか、何人程度の参加があるのか教えてほしい。
【委員２】
畑の提供については、玉島地区の子ども会役員所有の畑を借りている。６００株植えて、日頃の管理は役員で行っている。現状では参加者は２５０名程度で、収穫した芋は参加者が持ち帰っているが、大量に収穫できた場合は、社会福祉協議会又は子ども食堂に寄付している。この事業は好評であるため、今後も継続していきたいと考えている。
【議　長】
その他意見や質問はあるか。

【委員３】

美術館の特別展「やべみつのりと矢部太郎～『ぼくのお父さん』のふるさと・倉敷」を観に行った際、館長と担当者の方から「社会教育委員の皆様によろしくお伝えください」と言付かっていたので報告する。

【議　長】

その他質問がなければ、次の議題に移ってよいか。（異議なし）

（２）倉敷市における家庭教育支援の在り方について

〇家庭教育に関する事前質問・意見について事務局から回答。

親育ち応援学習プログラム（以下「親プロ」という。）の事業概要や他校の実施一覧を校園長会で周知してほしい、との意見に対し、毎年１月の校園長会における周知等を検討すると答えた。

①家庭教育学級について

〇事務局から市教育委員会の家庭教育学級について説明

倉敷市教育委員会は教育振興基本計画に基づき家庭教育支援を家庭教育学級と親プロの二本柱で実施している。家庭教育学級は公立幼稚園 PTA や民間団体に委託し、令和 6 年度は 14 学級で延べ 2,696 人が参加した。

〇川上委員の活動紹介（スライドを使って説明）

子育て支援活動をしていたとき、そこに参加される母親の要望を受けて子育て学校を開設。参加者の増加に伴い、外部講師による講演やＳＮＳでの宣伝にも力を入れるようになった。ＳＮＳを見た市担当者の提案で家庭教育学級を開設。年に１回、１００人以上が参加する講演会を毎年実施している。同じような活動をしている他市からの参加者から「自分たちの市には家庭教育学級のような制度がなくすべて自費で実施している」と言われ、家庭教育学級があって良かったと感じている。

親が学ぶ場、話し合う場の提供が重要であると考えるため、学びながら子育てできる環境を引き続き作っていきたいと思う。

〇百本委員の活動紹介（スライドを使って説明）

箭田地区まちづくり協議会で活動していたところ、市担当者から家庭教育学級開設の提案があり、箭田ほほえみクラブとして性教育に関する内容で実施することを決定。保護者や地域住民を対象として、家庭教育力の向上に資する学習機会の提供を目的に活動している。

学校では時間数や内容の制限があり、十分な性教育が行えない中で、子どもたちにはインターネットなどを通して様々な情報が入ってくるのが現状。正しい知識を持って自分を守り、被害者にも加害者にもならないことを伝えたいと思い、箭田幼稚園、真備中学校、真備陵南高校で講演会やワークショップなどの活動をしている。

また、西日本豪雨災害で子どもも保護者も疲弊していたときに、親子の癒しになればという思いで、「つづきの絵本屋」さんに依頼して読み聞かせを行い、その後もテーマを変えながら継続している。

さらに、一緒に活動している助産師グループの世代交代により、包括的性教育に力をいれるようになった。誰もが境界線を持っていること、どんなことでも相手の同意が必要であることなどの講演内容受講者の反響も大きい。家庭教育学級の助成金がありがたいので、今後も有効に活用して活動していきたい。

②親プロについて

親プロについて説明。（事務局）

親プロは就学前児童・小学生の保護者が対象です。家庭教育について保護者同士が話し合いながら自ら学ぶワークショップ形式の講座で、倉敷市では参観日や就学時健診、一日入学の機会をとらえて実施している。今年度は２学期までで４１回実施し、延べ１，６５０人が参加した。また、参加者アンケートでは、９８％が「学びがあった」、９７％が「参加者同士仲良くなれた」と回答があり、高評価を得ている。一方で、家庭教育に関心の薄い層への届きにくさ、保護者の学習ニーズの把握不足、家庭での実践や親子関係の変化など成果（アウトカム）の評価が難しい点が課題として挙げられる。

これらの課題や事業そのものについて、この発表を通じて委員の方の意見を聞きたい。

【議　長】

倉敷市の家庭教育支援事業についての意見や質問、また、活動紹介への質問はあるか。

【委員４】

親プロがとても良い活動であることは十分承知している。参観日の後の講演会では保護者が帰ってしまい参加が少ない。そのため、本校では全員参加の一日入学で実施しているが学校から伝えたいことも多く、時間の確保が難しい。また、親プロを知らない校長も多いと

思うので、定期的に校園長会でアピールするとよいと思う。

子どもの入学前の保護者はとても不安な様子であるため、親プロで顔見知りになり、つながりを持てるということは非常に良いことだと感じている。私自身も広めていきたいと思っている。

【議　長】

今のことに関して、意見等あるか。

【委員３】

私もファシリテーターとして参加しているが、一日入学等、保護者が必ず集まる機会に実施するのはよいことだと思っている。最初は嫌そうだった保護者も、最後には笑って帰ってくれることがうれしい。ぜひ広報に力を入れてほしい。

【議　長】

その他に意見等はあるか。

【委員２】

地域の高齢化や子ども会・学童保育の加入者減少により、地域で子どもを支える力が弱まっている。学童保育の運営委員長を長年務めている経験から、学童クラブの運営委員長や関係者が集まる場を市が作ること、若い保護者や中高大の学生を巻き込むことで知見や経験を地

域に還元できる仕組みづくりしていくべき。地域や学童のネットワークを活用し、市の家庭教育支援事業の周知・浸透につなげていってほしい。

【議　長】

今の意見について何かあるか。ないようなので、事業について他に意見等はあるか。

【委員５】

百本委員に質問。性教育を取り上げたのは、どのような問題意識からだったのか。

【委員１】

子どもたちを被害者にも加害者にもしないという思いから。そのためには、できるだけ幼いころから「自分が大切な存在であること」を伝える必要がある。保護者に対しては、子どもから性に関する質問をされたときに、ごまかさずしっかり向き合えるようになってほしいという思いで活動している。

【議　長】

他に意見等はあるか。

学習効果の測定についてですが、これは非常に難しい。主観的な評価にはなるが、例えば一定期間後に、グーグルフォームやネットを使って気軽に回答できるアンケートを実施するのはどうか。測定項目については専門家の意見等も取り入れたりするとより効果的に測定できるのでは。委員の方で、学習のフォローアップの取組事例があればお願いします。

【事務局】

家庭教育に限らず、社会教育の分野において、成果の評価は非常に難しいと考えている。

１つ指標があるとすれば、市民アンケートの中に家庭や教育についての調査項目があるので、そこを確認していきたいと思う。

ただ、社会教育の分野では、行政の役割として何かを学習するきっかけづくりが重要であると考えている。その延長として講座や活動を行い、学びの成果が出ればよいと感じている。

また、地域の活動に対する地域住民の無関心の多さや家庭教育への男性の参加率の低さ等、社会教育がコンタクトしていくべき課題が多いと思っている。

【議　長】

他に意見等はあるか。

【委員１】

大学の子どもに関わる学科で、親プロ実施前後の参加者の変化を調査・研究してもらう、また、実施した学校で１、２年後の追跡調査に協力してもらう等、協力をいただいて、評価につなげるのはどうだろうか。

【議　長】

倉敷市内の大学には、子どもに関わる学部がある学校もあるため、調査研究をしてくれる研究室等が出れば、有意義な調査結果が出るのではないかと思う。

他に意見等はあるか。

【委員２】

市立短大や作陽大学にも子どもに関する学科があるので、連携して事業を行ってみてはどうか。中高大学生を巻き込むことができたら面白いのでは。

【議　長】

世代を超えて学生がグループワークをすることは、今を生きる子どもたち同士で悩みを共有できる機会となるので、そういった場の提供を検討してみてはどうかというような意見だったと思う。事務局は今の意見を参考に、何かしらの行動を検討してもらいたい。

他に意見等はあるか。

【委員６】

親プロは、高校生に対して実施してもよいと考える。親になってから知るよりも高校生のときから継続的に学んでおくとよい。様々な機会に、より気軽にワークショップができるスタイルを開発してもよいかと。

また、効果は量に比例するので、高校生のとき、親になったとき、子どもが小学校に入学するときというように、回数を重ねることで効果が生まれる。評価にとらわれることなく、実際に影響を与えることが目的だと思うので、量の展開を検討することも課題ではないかと考えます。

【議　長】

子育ては瞬間的ではなく継続していくものであるため、様々な側面の取組を総合的に判断するべきであると考える。

1 つ思いついたのは、高梁川流域で倉敷未来人材育成事業等、学生が地域に出て、企業やＮＰＯ法人と連携して課題を解決するＰＢＬ（課題解決型学習）の事業があってもよいのではと思う。このような会議の場で出た意見が具体的に前に進めばよいと思う。

終了予定時刻が近づいてきたが、どうしてもこれは言いたいということはあるか。

【委員３】

成果はすぐには出ない。私は、子育てのヒントになればいいなと思いながら親プロをしている。成果を知りたい気持ちはあるが、アンケートの中にも「何回目です」という記述があり、何回も聞いてもらえているうれしさを感じる。また、「新たな視点を得ることができた」と直接感想を言ってもらえることもあり、気づきを与えられていることがうれしい。

子育ては時代に応じて変化していくもので、その都度プログラムも見直す必要がある。

引き続きチーム全体で協力してよいものにしていきたい。

（３）その他

〇事務局からの説明

文部科学省の「社会教育のあり方に関する特別部会」の概要及び社会教育主事と社会教育士について説明。

・文部科学省中央教育審議会生涯学習分科会「社会教育の在り方に関する特別部会」について

社会教育の推進方策や人材、地域と学校の連携、推進体制などを審議している。市長が委員として参加しており、令和８年夏の答申を目指している旨を説明。

・社会教育主事と社会教育士について

社会教育主事は行政の専門職員として、社会教育を行う人々に対して専門的・技術的な助言や指導を行う役割を担っている。

社会教育士は地域や社会教育関係団体において、生涯学習の推進や地域の活性化を目指し活動している。具体的な活躍場面（地域づくり、企業での学び直し支援、学校と地域の橋渡し等）において、両者が連携することでより円滑に地域課題の解決が図られることが期待できる。

４　閉会

・教育次長による挨拶